

11月19日に話題になった「人間の安全保障（心の安全保障）」について。

三宅裕一郎教授（日本福祉大学）から「日本国憲法前文」との関係。

「人間の安全保障(human security)」という考え方は、1994年に国連開発計画(UNDP)が『人間開発報告書』の中で提唱した概念です。従来安全保障といえば、国家が主体となって国家を防衛するという発想で(国家安全保障)、その手段も軍事的なものが中心でした。

しかし、「人間の安全保障」は、文字通りひとり一人の人間の安全確保に主眼をおく考え方であり、その担い手も国家だけに限定されるのではなく、自治体、市民団体、NGOなど様々です。

平時から身近に潜む社会のあらゆる暴力に目を向け、「不断の努力」によってその克服を目指す。「人間の安全保障」にはこのような観念が内包されていますが、これこそまさしく戦争の芽を摘むということに他なりません。日本国憲法前文は「われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和の内に生存する権利を有することを確認する」と述べていますが、これは「人間の安全保障」に重なり合う姿勢だといえるでしょう。

◆人間の安全保障は英語では=human Securityと言う。

=個々の人間の安寧を保障すべきであるという安全保障の考え方である。

この「人間の安全保障」という言葉が必要とされるようになった背景として、特に冷戦終結後多発する地域紛争の際、国家が国民の安全を確保する機能を失った状況の下、国際関係がどのように現地の人々の安全を保障すべきかという課題に迫られていることが挙げられます。

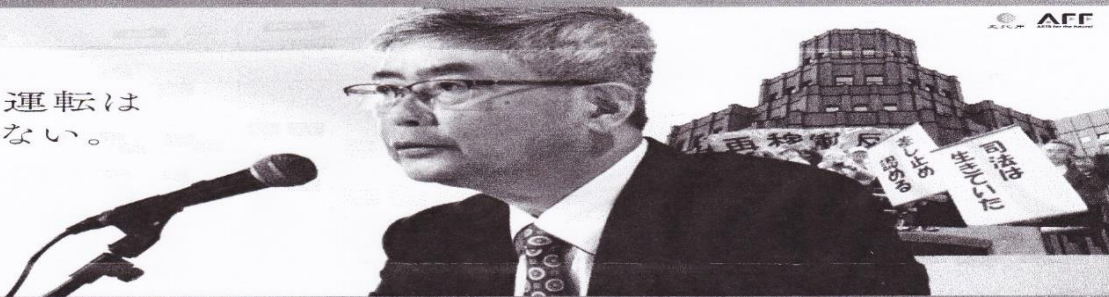
「ひとり一人の生命や生活を守る責任は本来、国家にある。しかし、紛争や経済危機に見舞われた国々の政府は国民を守る力を失う。そこで外からの支援を通じて暴力や人権弾圧などの「恐怖」を絶ち、貧困に由来する食料や水、教育、医療の「欠乏」をなくしていく。」

講演会
と
映画

日時：2024年2月25日(日) 14:00～
会場：岐阜県図書館 多目的ホール
参加券：前売り ¥1,000 / 当日券 ¥1,200
問合せ：伊藤 090-8952-0013
Eメール：hitou@kibousha.co.jp
主催：さよなら原発・ぎふ

樋口英明元裁判長 ～ 講演会 ～

よって、
原発の運転は
許されない。



映画

原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち

「日本語字幕付き、音声ガイド(UDCast)対応のバリアフリー上映」

樋口英明(元裁判長)
河合弘之(弁護士)
近藤恵(二本松営農ソーラー)
飯田哲也(環境学者)

監督・脚本：小原浩靖
企画・制作：河合弘之
音楽：吉野裕司
主題歌『霧連き戦士』歌：白崎映美



映画公式サイト